

講演：『季節予報の改善と利活用について』

（第91回月例会）

気象庁では、数か月先を予測する季節予報として、大気に比べてゆっくりと変動する海洋変動についても考慮し、大気モデルと海洋モデルを結合させ、大気と海洋の相互作用（海洋変動に対する大気の応答や大気の流れが海洋に与える影響等）を組み込んだ大気海洋結合モデルを用いた予測を開始しています。

この大気海洋結合モデルは、大気モデル及び海洋モデルそれぞれの解像度を向上させたほか、積乱雲の発生・発達等の計算を精緻にすること等により、エルニーニョ現象をはじめとする大気と海洋の変動の予測精度を改善し、3か月予報や暖・寒候期予報における高温や低温などの天候の特徴をこれまでよりも高い信頼度で予報できるようになり、季節予報の精度向上を通じて、農業等における気候リスクの軽減や、消費・販売が気象・気候の影響を受ける製品の生産・流通計画の最適化など、社会経済活動により一層貢献する等の効果が期待されています。

今回の講演では、大阪管区気象台気象防災部 気候変動・海洋情報調整官 和田 晃 氏に、より精度を増した季節予報について分かり易く解説していただきます。

■講師

大阪管区気象台気象防災部
気候変動・海洋情報調整官 和田 晃（わだ あきら）氏

■開催日時

令和4年5月25日（水）15:00～16:00頃まで

■開催場所

神戸市勤労会館 2階 多目的ホール
神戸市中央区雲井通5丁目1-2 電話 078(232)1881



■主催

公益社団法人 神戸海難防止研究会（担当：渡川又は藤原）
電話 078(332)2035

入場無料（定員40名）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止対策といたしましてマスクの御着用をお願いいたします。